

卓 話

『ロータリークラブの社会奉仕』

第2630地区社会奉仕部門委員長

山本 満祥

社会奉仕委員会は、それぞれのクラブのテリトリーや行政区域の中で、社会に対する奉仕活動を支援する役割を持っている。

ロータリーでの社会奉仕は声明92-286に基づいて行われ、決議23-34の社会奉仕に準拠した活動を行うものです。92-286では「奉仕について定期的に調査し会員の得意とする職業能力や趣味を生かすこと、クラブの立場力量を考慮する。さらにはローター・インターアクトと共同参加する事も良し。もし適切であれば諸団体にプロジェクトを委譲する事もあります。」23-34の社会奉仕活動方針では「6項目からなっています。1つの社会奉仕活動を会計年度で完了できるものを後援し、全会員によって協力できるもの、しかし他の機関が行っている事業に乗り出してはいけないし、最後には個々の力を動員する奉仕が良い。」となっています。実際のプロジェクトの共通事項についてクラブは地域において独自性と存在意義を確立する事、対外的奉仕を最も重要視してほしい、さらに結果を広報してほしい。広報する事によりロータリーの増強や宣伝にもなる。11-12地区役員・委員会表では社会奉仕および新世代部門となっていました。12-13委員会表ではCLPにそって奉仕プロジェクト部門の社会奉仕部門となっています。CLPでは奉仕は1つになっていますが5大奉仕の重要視から部門として残してあると思います。

プロジェクトの成功には次の3つが必要となります。

効果を最大に高めるため資金・物質・ボランティアにより体を動かす事で、経済の3原則、人・金・物と同じ事です。ロータリーの最初の社会奉仕は1907年になります。会員間で儲けすぎたことをカモフラージュするため弱者に対する慈善事業として考えられた。その後公衆トイレ設置という計画的活動に発展していった。市や民間組織とも協力して行ったが、邪魔する組織・組合もあったがトイレは設置された。

村橋年度の社会奉仕部門では水と緑の保全をテーマとして里地里山の保全・節電・東日本震災復興支援事業を掲げました。節電ですが家庭・企業の努力により節電目標は解消されていますが、今後も無駄使いの無い社会の実現、資源の確保など人類の責任として節電をお願いいたします。節電のシールを作成し、皆様のお手元に配布されています。シールをエアコン・冷蔵庫・デスク等に貼って節電を目からやきつけてください。家庭でできる節電はスイッチオフなど、企業でできる節電は省エネ行動など各7つのポイントを着実に実践してください。震災復興支援については必要な物資の提供やローター・インターアクトと共同で募金活動など行っていただきたい、委員会でも地区大会に募金箱を設置し募金活動を行います。里地里山については住居と山の間にある木が生い茂っていない場所で、住居地と山林の緩衝地帯を保存すると良いといわれております。そのような土地の草刈・伐採の活動をお願いいたします。委員会の事業として各ロータリークラブのテリトリーや主となる行政区域にある綺麗な水・せせらぎ・池等、さらに緑豊かな景色を1ヶ所づつ（有名なところでも良い）推薦していただきたい。これを2630地区の名水・緑景観としてまとめます。

最後になりますが各クラブより提供いただきました社会奉仕事業についてまとめてみました。三重県では寄付・寄贈が15事業として最も多く、次に清掃、岐阜県では清掃が飛びぬけて多く、次にイベント参加となりました。その他にも日赤への協力・音楽支援・慰問等の活動をされています。詳しくは地区大会にて披露させていただきます。

卓話にお招きいただきありがとうございました。